

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2019年6月号>

147号 2019.06.03 配信

初夏の暑さに汗ばむ一方、肌寒い雨の日も少なくないこの時期、体調管理は大丈夫ですか。ストレスがたまらぬよう、食の力をかり、自分らしいエネルギーチャージし、日頃から心と体のエネルギー管理に努めてまいりましょう。

## ■同窓会だより

◆ **全国支部長会** 5月18日(土)13:00~15:30 全国51支部の支部長が参加。

◆ 『**第46回 光葉同窓会総会**』開催 5月19日(日)10:30~14:30

学園本部館大会議室で来賓並びに恩師15名、同窓生140名を迎えて行われました。

第1部では、坂東眞理子理事長・総長から「大学にとって多くの同窓が卒業後も各地で活躍し、母校に愛情を持ち続けていることは、何よりも大きな無形の財産であり、皆様が母校を誇れるよう現在大学も、キャリアとグローバル教育に重点を置いて成果を出している」と挨拶されました。続いて第二期目を迎えた比護和子同窓会長より、都内新支部の設立や在校生支援の新たな奨学金の創設、来年迎える創立100周年記念事業と募金への協力要請がありました。

第2部では、「創立者人見圓吉先生の願い」と題した映像から、詩人であった創立者が、教育者として高い理想を掲げ、ひたむきな努力と情熱を持って女性教育に邁進されたことを再確認することができました。

また第3部懇親会において金子朝子学長から「今年9月にはテンプル大学ジャパンキャンパスが移転してくるので、学生はより深く幅の広い学びに挑戦できる」と新しい視点から昭和女子大学ならではの特色を示されました。その後、同窓会長から元支部長と元本部役員に今までのご尽力に対して感謝の品を贈呈致しました。それを受け元本部役員(第5代会長)安西美津子様、元支部長(元新潟県支部長)小笠原露子様よりお礼の言葉を頂戴いたしました。(文責:松本)

◆ **光葉同窓会総会ツアー** —昭和女子大学ゆかりの地 校歌にも歌われる緑が丘を訪ねて—

総会翌日、学内に残る戦火を逃れた記念碑を見学し、現在校祖の墓、恩師の墓、同窓の墓が設けられている松陰神社を参拝しました。更に中野区上高田にあった本学前身日本女子高等学院の跡地、萬昌院功運寺(戦時教室)、青原寺(創立20周年に恩師の墓を建立)を巡り、戦災までの本学の歩みを感じ取りました。(39名参加) (文責:松本)

◆ **光葉同窓会幹事会が開催されます。**

6月15日(土) 13時~15時15分 学園本部館 3階大会議室

## ■学園だより

○ 6月23日(日) 10:00~15:00

第2回オープンキャンパスが開催され、大学の特色や概要など、学科イベント、学生スタッフによるフリートークなど盛りだくさんです。推薦入試をお考えの方は是非ご参加ください。

○ **2019年度教員免許状更新講習開催のお知らせ**

本年も、文部科学省の認定を受け教員免許状更新講習を開設いたします。

実施日: 2019年8月20日(火) および8月21日(水)

なお、本講座の対象となる方は、「現職教員の方」・「過去に教員として勤務経験のある方」 「教員として採用内定を得ている方」のみとなります。

手続き方法等の詳細は本学HPでご確認ください。

[https://univ.swu.ac.jp/contribut/co\\_life/koushinkoushu/](https://univ.swu.ac.jp/contribut/co_life/koushinkoushu/)

## ■広げよう光の葉

角田郁子（旧姓 坂井）さん 1958年 生活科学科

### 『わからないことは勉強すればいい』

私は、短大の食物科に入学し、大学の生活科学科に編入をいたしました。学生時代には卓球部に入り、毎日練習に汗を流していました。女子大の中では強いチームで、全国大会団体戦第3位になりました。その当時一緒にチームにいた富山県在住の福井孝子（旧姓 川合）さんは現在もシニア世界選手権大会の日本代表として活躍されています。



卒業間近な頃に、人見楠郎先生から「附属の小学校に給食室を作るプロジェクトに入るように」と言われました。就職も決まっていたし、そのような未知な仕事にはとても力が及ばないのご辞退を申し上げました。ところが、人見先生は「学校で習ったことを実践すればいい、わからないことは勉強すればいい」とおっしゃいます。その言葉に背中を押されて「給食室作り」に参画する事になりました。

当時の全国小学校の給食はアルマイトの食器で、食器が熱くなるために「犬食い、猫食い」と言われるような悪い姿勢で食事をしていました。私は欧米には、スープを最後の一滴まで、すくって飲める食器があることを知り、数々の小学校や病院等を廻ってその食器を探しました。そしてある病院でその理想の食器を使っていることが分かりました。ところがアメリカ製の食器で、値段が高くとても給食用に購入はできません。でも、人見先生はその食器を購入出来る方法を考えるようにとおっしゃいました。幸いな事に、私の実家の近くに洋食器の生産で有名な燕市があり、生産工場から特別に安価にスプーンやフォークを購入できて、小学校の給食室が完成しました。厚生大臣表彰を頂くことも出来ました。

この当時から人見先生と私は「食育」という言葉を使っていました。「小学校にとって、食事大切な教育の一つだから”食育”でいいじゃないか」という理由でした。給食の食器もその考えの一つでした。スープを最後の一滴まで掬える食器であれば「犬食い、猫食い」をする事はない。正しい姿勢でおいしく食事をする事が大切、という食育です。

この時の経験は、わからないから出来ない、と逃げ腰だった私を引き止めてチャレンジする楽しさを教えてくれました。その後、地域のボランティア活動を始めた時も、趣味の編み物の資格で“世界の手編み”のサークルを40年続けたのも、全て「やってみなくてはわからない」という気持ちからスタートしています。

1963年に宇都宮市内を中心に栃木県支部が発足し、1993年に栃木県全域までに広げた時に役員として携わり、1998年から6年間支部長を務めさせていただきました。

同窓生の皆さんの中には、今年から就職した方もいるでしょう。子育てで忙しい方もいるでしょう。毎日の忙しい時間の中に、少しでも自分だけの時間を持つことをお薦めいたします。考える時間、リラックスする時間です。その時間は、新たな考えや行動を生み出す時間に繋がっていくと思うからです。

END